

枝豆

作付面積62.1ha(前年度比93%)、出荷量117.7トン、販売額8,144万円となっており、7月豪雨や以降の猛暑による被害が大きく影響した年となりました。

4月下旬に播種作業が始まってから発芽、生育とも順調で収穫期を迎えましたが、大雨の影響で収穫直前の極早生・早生品種が収穫できなくなるなど、全体の面積の9割が水害に見舞われました。最も作付面積が多い中生品種は、猛暑による生育前進などが影響して莢付きが悪く、前年度の4割ほどの減収となりました。



販売面では、秋田県全体の数量が減少したため単価高で推移していましたが、中生の前進の影響からお盆以降の数量確保が難しく、販売先からの要望に応えられない状況となりました。安定した単価を確保するため前年度より契約販売を増やしながら取り組みましたが、A品の販売実績は前年度比の数量で61%、金額で75%となりました。次年度は品種や資材による高温対策を行い、県内外へ向けた安定した品質と出荷量を目指して取り組んでまいります。

◀6月19日(月) 枝豆現地研修会

メロン

3月から4月上旬までは気温が高く、播種時期は平年並みで天候がよかったことで、生育に問題なく早めの仕上がりとりました。定植作業は大型ハウスで4月5日から始まり、ベトコンハウスは4月10日中心、二重トンネルは4月22日中心、一重トンネルは5月1日中心でした。定植後は最低気温が低めの傾向で、強風日が多く生育が抑制気味でした。特に4月25日は強い降霜があり影響が懸念されましたが、被害はありませんでした。ハウスでは最後の伸びが不足し玉肥大が心配されましたが、まずまずの玉流れでした。二重トンネルは令和4年度よりは大きめで、一重トンネルは2玉比率も高く大玉傾向の仕上がりとりました。

販売面ではJA全農や市場関係者と情報交換しながら、贈答向けやJA直売所、量販店などへの予約販売を行って販売強化を図ったこともあり、単価の向上に繋がりました。結果的に、販売量4万7,101ケース(計画対比112%)、販売単価1ケース当たり2,755円(同130.9%)、販売額1億2,976万円(同146.6%)と、計画を上回る結果となりました。

7月11日(火)「わかみメロン」目揃え会▶



梨

生育面では、2月中旬以降の高温により発芽期～開花期が令和4年度より10日程度早くなりました。その後開花期を迎えて授粉作業に入ると、降雨は少なかったものの、開花前の高温傾向から一転して20°Cに達した日は4月29日のみと、開花期間を通して風が強く低温でした。この影響で男鹿地区で「豊水」や「南水」に着果不良がみられました。また、4月24日深夜から25日早朝にかけて強い霜が降りたことで花芽が枯死し、天王地区や追分地区の全域、男鹿中石地区の一部園地で甚大な被害となりました。「幸水」の肥大は、霜害の影響によって、通常は摘果対象となる果実も着果させたことから、生育初期から小さい状況でした。7月に入り、降水量も多かったことから

若干の回復をみせましたが、8月以降の高温少雨により肥大が鈍化し、多くの品種で小玉傾向となりました。

販売面については、高温少雨による果肉先行型の情報を得て、目揃え会で例年より着色の青い梨を収穫するよう呼び掛けたものの、異常高温の影響によって出荷物の傷みなどが発生し、出荷量は2万4,935ケースにとどまりました。全国的な流通量の減少から高単価となり、その結果平均単価は1ケース当たり4,718円(前年度比135.6%)と前年度を上回ったため、販売額は1億1,764万円となりました。

◀5月10日(水) 天王地区霜害後栽培管理講習会

